

# 温故知新

(封建社会のはじまり)

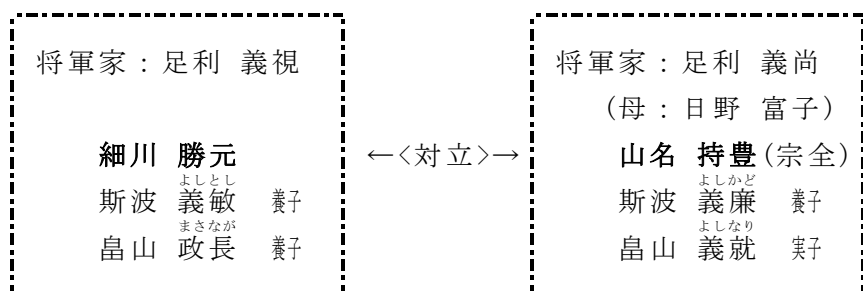
No. 36

( )年～( )年 [ ]

8代将軍( )の後継ぎ争い

弟：足利義視  
子：足利義尚

有力守護大名( )氏と( )氏の対立  
管領家：斯波氏、畠山氏の後継ぎ争いを巻き込む。



[ ]を戦場にして、( )年間も続く。

↓

大半が焼け野原になってしまう。

その後も守護大名が各地で争いを続けたため、戦乱は、全国に広がった。

その結果、将軍家・[ ]の力は衰えた。

1485年 [ ]

山城の国(京都府)南部で、守護大名( )氏が二派に分かれて戦い、農民から人夫や銭を取り立てた。

↓

( )と農民が集会を開き、両方の軍勢を国から追い出した。

↓

地侍36人が代表になり( )を定め、8年間、自分たちで国を治めた。

[ ]

近畿・北陸・東海地方では、[ ]宗( )宗が急速に広まった。その信仰で結ばれた( )と農民が一揆に立ち上がった。

1488年 加賀の [ ]

一揆軍が城を囲んで、守護大名(富樫政親)を自殺させ、以後( )年間、「百姓の持ちたる国」として自治を続けた。

## 応仁の乱

8代将軍義政の時、幕府の実力者の山名持豊と細川勝元の争いに、将軍義政の後継ぎ問題がからみ、守護大名は細川方(東軍)と山名方(西軍)に分かれ、1467年から11年間京都を中心に戦った。

【原因】8代将軍義政の相続争い(弟・義視と子・義尚の対立)、管領の畠山・斯波氏の相続争い、山名氏と細川氏の勢力争い。

【経過】細川勝元率いる東軍16万・24ヶ国と山名持豊率いる西軍11万・20ヶ国が戦い、京都を中心に11年間も戦う。

【結果】戦乱によって京都は焼け野原となり、将軍の権威は衰え、守護大名の力も衰え、下級武士や有力な名主が大名にとって代わる世の中に突入した。